

令和6年度第2回秦野市社会教育委員会 会議録(要点筆記)

1 日 時 令和6年10月25日(金) 午前10時から正午まで

2 場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室

3 出席者

(1) 社会教育委員

小寫恵、竹内房枝、橋爪梨絵、小泉康男

朝倉徹、端山清、熊澤広明、渡邊哲幹、吉原揚子

欠席：小澤直彦、鎌田初子、小泉道生、高橋弘子(全13名中9名出席)

(2) 市

佐藤教育長、宇佐美文化スポーツ部長、水島生涯学習課長、

北口スポーツ推進課長、山本図書館長、長島こども育成課長、

三川教育総務課長、市川教育研究所長

[事務局]堀野生涯学習担当課長代理、金口生涯学習担当主査

4 会議の概要

(1) 開会

ア 会議成立報告

事務局から、小澤直彦、鎌田初子、小泉道生、高橋弘子委員の欠席を報告。社会教育委員13名中9名が出席しており、秦野市社会教育委員会会議規則第4条の規定(半数以上の出席)により会議が成立した旨を報告。

イ 傍聴者報告

事務局から、傍聴者の申し出がない旨を報告。

(2) あいさつ

ア 教育長あいさつ

社会教育委員におかれては、日頃から本市における生涯学習活動の実践や推進に多大なる力添えをいただいております、改めて御礼申し上げます。

本日は、12の情報提供・参考資料がある。また、前回会議で皆様に決定いただいたテーマ「私たちが子どもと携わりながら、社会教育を豊かにすることについて」、皆様からお寄せいただいた御意見をもとに協議いただけると事務局から聞いている。それぞれお持ちである専門的見地からの御意見を賜りたくお願い申し上げます。

11月16日(土)に「全国報徳サミット桜川市大会」が開催される。

「時代を超えて息づく報徳仕法によるまちづくり」がテーマであると聞

いている。私も大会に参加させていただくが、参加いただける委員におかれては、ぜひ会場に訪れ、理解を深める機会としていただきたい。

来年度の開催が内定している報徳サミット秦野市大会に向けて、昨日、竹内委員にも参加いただき実行委員会が開催された。その中で、「前回の秦野市大会において南小学校で菜種油を搾ったが、今回も子どもたちにこんなことをやってもらったらいいいのではないか」という意見が委員から挙げられた。我々は地域とともにある学校を目指しているので、いくつかの学校で受けていただけないかと考えている。

ところで、全国都市教育長会議の中で「学びのデジタル化について」という資料があり、文科省の初等中等教育局デジタル化プロジェクトチームの若手官僚に説明いただいた。

今週の読売新聞には「タブレットを使って学力が落ちている」という旨のスウェーデンの特集記事が載っていた。また、文科省の調査官で縁のある方がOECDに出向しているが、オンラインで話す機会があり、北欧ではデジタル離れが進んで、デジタルツールを使わなくなっているという話を2年ほど前から聞いていた。

実は私どもは、デジタル導入のときに朝倉議長から苦言をいただいていた。我々としてはあくまで学びの目的を達成するためのツールであると考えており、そのことを各学校に徹底している。

ICTの活用頻度と各教科の平均正答率との関係が報告されているが、デジタル機器を使ったから正答率が上がるというわけではないのは、はっきりしている。ただ、主体的・対話的な深い学びの視点から授業改善を進め、課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほどICTの活用頻度は高く、しかも学力が高くなっているということなので、このあたりにカギがあると考えている。

「日本型学校教育の成果」について、世界的にも非常に優れていると言われており、OECDによる教育政策レビューでは、OECD各国の中でも日本の児童・生徒及び成人がトップクラスの成績であり、その成功要素として、子どもたちに対し学校給食や課外活動（修学旅行のような特別活動）など広範囲にわたる全人的な教育を提供している点が指摘されている。

そのような中で、学校教育と社会教育の連携として、本市教育委員会としては、「読書活動の重点化から習慣化」、そして「ふるさと科」に取

り組んでいる。ふるさと科については今年度の教育研究発表会で渡邊委員に御助言いただき、先生方は非常に印象に残ったと思う。

小畠委員が校長を務める西小学校では、6年生に対し、丹沢讃歌という秦野で歌い継がれている歌を外部講師から御指導いただけることになった。また、北幼稚園と地元の方を教育委員会のほうでつなぎ、北地区の伝統であるささら踊りを教えていただくことになった。幼稚園で教われば、いずれその子たちは小学校、中学校へ上がっていくので、中長期的にふるさとの良いところを伝承していきたいと考えている。

さらに、新たな学びプロジェクトとして、地域や民間企業と連携した教育活動を進めている。来年1月、東海大学の先生とソフトバンク社が協働して鶴巻中学校で授業を行っていただく企画が進んでいる。

教育委員会としては、学校だけでなく地域の方と協働して学校教育を運営するという考え方、学校教育と社会教育の協働という考え方を大切にしていきたい。引き続き御支援をお願いする。本日の会議もよろしくお願いしたい。

イ 朝倉議長あいさつ

先週の月曜日、大学基準協会から7年に1度の定期的な視察があり、対応に当たっていた。その中で、大学で行っているボランティアについての質問がいくつもあった。東海大学ではボランティアに関する教養科目を1年生全員の必修科目としている。これは全国の大学でも珍しいもので、全員にボランティアの心構えや事例などを説明している。「授業を受けた学生は実際にボランティアに行っているのか」、「学生がボランティアに行くことについて大学でサポートを行っているのか」といった質問があった。授業を受けたからといって2万人を超える学生が皆、進んでボランティアをするということはないが、一部の学生は進んで活動していて、その報告を受けたり、振り返りの授業を行ったりしているということを回答した。大学基準協会の好みというより共助を求める時代の流れであり、資する授業があれば知りたいということかと思う。この会議でも秦野市のためにそういった話を具体的になるよう発展させていけるよう、色々なお話を伺いたい。

デジタル化について、私は反対派ではないが、タブレット導入の教育的効果について証拠はないが大丈夫なのか、導入する場合の危険性もあると10年以上前から警鐘を鳴らしてきた。これについては当時、企業

からどうということなのかと聞かれたりしたが、あまり注目されていなかった。ギガスクール構想が始まって、3～4年前から少しずつ講演依頼をいただいている。タブレットを導入してはいけないとか、アナログツールのほうがよいということではなく、時代に合ったかたちで、効果のあるものは使っていこうという姿勢には変わらない。

ただ、生成AIについては慎重に取り扱わなければ、子ども達の基礎学力、そして社会的共助に影響を与える可能性があると思う。生成AIは情報の発信者と受信者をダイレクトに結ぶ。楽に色々な情報を手に入られる。本来は、オピニオンリーダー、心理学ではミドルマン、学校で言えば先生、新聞やテレビで言えば知識人、こういった方が解釈してバランスよく記事にしたりコメントしたり、分かりやすく伝えているが、AIが浸透してミドルマンが不在になっていくと、極端な意見が散り散りになって出てくる。10年、20年前では考えられなかったような偏った主張をする方が出てきているので注視していかなければならないと思っている。学校教育についても先生方と連携してうまく活用してほしいが、子どもたちの成長に対して教育的役割が大きかったミドルマンとしての先生方の役割を改めて見直しして、デジタル社会の中で、学校や先生の位置付けを考えたいと思っている。

子どもたちや学校教育を支える社会教育であり、子どもたちを通じて大人がつながろうという社会教育、こういう視点でテーマをいただいていたと思います。本日、会議後半で皆さんからたくさん御意見をいただければと思うので、よろしくお願いします。

(3) 会議録署名人の指名

議長のほか、議長が指名する1名の委員を会議録署名人とする。
今回の会議について、橋爪委員が指名された。

(4) 情報提供・参考資料

《朝倉議長》

前回までと同様、情報提供及び参考資料については、担当課から説明を要する案件のみ説明する。なお、質疑応答においては、すべての資料に対し質問を受け付けることとする。

資料 1、2 及び 3 により、生涯学習課長から
情報提供・参考資料(1)から(3)までを説明。

- ア (1) 第 5 次「秦野市生涯学習推進計画」の策定状況について
- イ (2) 広域連携中学生交流洋上体験研修について
- ウ (3) 公民館における夏休み期間の学習室開放の結果について
- エ (4) 企画展「食と農」について
- オ (5) 企画展「秦野にいた女性たち～それぞれの物語～」について
- カ (6) 令和 6 年度 指定文化財特別公開について
- キ (7) 令和 6 年度第 4 回ミュージアムさくら塾
「農業技術と農地制度－秦野地方の特徴も含めて－」について
- ク (8) 令和 6 年度桜土手古墳公園活性化事業
「古墳 de Z U M B A」について

資料 9 により、図書館長から情報提供(9)を説明。

- ケ (9) 秋の読書週間について

資料 10 により、こども育成課長から情報提供(10)を説明。

- コ (10) 令和 6 年度お仕事体験バスツアーについて

資料 11 により、教育総務課長から情報提供(11)を説明。

- サ (11) みんなで考えるみらいの学校整備指針(案)のパブリック・コメントの実施結果について

資料 12 により、教育研究所長から情報提供(12)を説明。

- シ (12) 第 4 2 回教育研究発表会の実施結果について

[質疑応答・意見等]

<熊澤委員>

資料 9 (3)のクイズについて、レシートにクイズを印字して終わりなのか。せっかくクイズを出すのだから、クイズに挑戦したらしおりと交換するとか何かしら工夫があると利用者に喜ばれると思う。

資料 1 0 のお仕事体験バスツアーは日程がタイトではないかと思う。昼食がバスの中というのもあり、せっかく行くならもう少しゆとりがもてると良いと思う。

資料 11 のパブリックコメントの結果で、プールのことが書かれていて気になったが、私が子どものころ、南小学校にはプールがなく本町小学校まで借りに行っており、年間 1 ～ 2 回だった。大きな費用がかかる施設だと思うので、北は小中あわせて 1 つで可能かなと思うし、南は小中が離れているから兼ねるのは無理かなとか、もう少し工夫してプールの統合を考えていかないと、子どもたちの楽しみが消えて行ってしまうと思うので検討してほしい。

(図書館長)

資料ではなく本日配付したチラシ裏面の項番 5 に記載しているが、クイズに参加した方には参加賞をお渡しすることにしており、委員から御意見をいただいたようなことを図書館としても実施したいと思っている。

(こども育成課長)

資料 10 の「その他」に記載のとおり、子どもたちは朝早かったので疲れている様子だったということで、帰りは寝ている子どもが多かったと聞いている。工場見学に行くに当たって、2 か所見ようとすると、午前中は 10 時、午後は 1 時か 2 時からというのがほとんどで間隔が短かったというのと、以前、発注しておいて現地でバスまでお弁当を持ってきたというのを試みたことがあるが、うまくいくときもあれば遅れてしまって工場見学に間に合わなくなるので全部食べ切れなかったこともあるという経過があり、今回は持参しバス内で食べてもらった。できれば大きな公園などで食べてもらえば良かったと現地へ行った職員から聞いている。いただいた御意見を参考にして今後も続けていきたい。

(教育総務課長)

学校プールについては、年間稼働時間が少ない一方で維持管理コストが高くなっている。今後の教育委員会の検討項目として、児童生徒の技術力の向上、授業における教員の安全管理面等の負担軽減を目的とし、民間事業者の水泳事業を委託できないか考えている。ただいまいいただいた意見も参考にしたい。

資料 13 により、事務局からテーマに係る協議について説明。

(5) テーマに係る協議について

本年度第 1 回社会教育委員会において、本年度の協議テーマを「私たちが子どもと携わりながら、社会教育を豊かにすることについて」と

し、第1回の会議後に委員から書面で意見を寄せていただき資料13としてとりまとめたこと及び資料13に沿ってその内容を事務局から説明。また、今回は、協議テーマに対する社会教育委員会としての方向性を協議いただきたいと説明。本日の意見を集約して、第3回社会教育委員会会議で提示したうえで、教育委員会会議にて報告させていただく予定であると説明。

<端山委員>

学校に社会教育が入り込んでいくことの負担感はないか気になる。子どもに知らせたいことがある場合、学校にチラシを持って行って配ってもらっていたが、最近は学校の先生の仕事を減らそうという話もある。チラシ配るのも、何をするのも大変かと思うので学校を介さない方法も良いのかなと思った。最近は子どもたちに連絡できる連絡網のようなアプリがあると聞いた。

ただ、冒頭、議長からミドルマンを介さず情報がストレートに行くのはどうなのかという話もあった。直接子どもに届くのか、親を介すのかという違いもあると思う。我々が公民館で企画する講座は、親が子どもに勧め、親が申し込んでくる。

子どもに情報を伝えるやり方は、新しいものが良いのか、古いものが良いのか、私自身迷っている。

中学校の文化祭では演劇発表で写真や連絡のツールとしてタブレットを上手に使いこなしていた。小学校ではタブレットで検索した歴史的事案について子どもが質問し、先生が回答していた。タブレットではなく本を頼りに調べている子どももいた。上手に使っていることもあるが、あまり考えなくなっているのではないかと思うこともあり、我々自身もツールを迷っているから子どもにうまく伝えられていないと思う。

《朝倉議長》

情報発信という観点だと社会教育が先生方に御負担をかけるのではないかという悩みもあると思うが、その点はいかがか。

<小畠委員>

たくさんのチラシを配ると、低学年などは大変時間がかかってしまうので、最近チラシが少なくなっていてありがたい面もある。教育委員会も tetoru を使って保護者へ配信している。

また、昇降口近くに「ご自由にどうぞ」コーナーを作ってチラシを配置している。学校のことを考えてくださるお心遣いに感謝する。

意見にもあるが、子どもたちにゆとりがなく、土日もおけいこなどがあり月曜日に疲れている子どももあり、休みがない生活をしている子どももいる。3年生でも6時間目まであり、6年生だと週1回5時間、その他の日は毎日6時間目まである。なるべく早く帰してあげたいと思ってやりくりしている。

《朝倉議長》

児童生徒、先生の負担をなんとか少なくしたいということだと思う。

皆さんから何か良いアイデアはあるか。

＜熊澤委員＞

自分が教員だった頃、個人的にはあまり負担感を感じていなかった。各学校では、廊下にボックスをつくっておいて、チラシを持ってきてくださった方にクラスごとに部数を分けて入れておいていただくようにしていた。配る手間を省略する工夫もできると思う。

地域との関わりとして大切なのは担任の先生。配るときにチラシを見て、例えば一言、「こんなことをやっているのか。おもしろそうだな」とボソッと言う。それを言うか、言わないか。冒頭、議長のお話にもあったが、そこに人間か介在していることが一番大切なことだと思う。担任としての言葉がけが一番大切だと思う。

＜小畠委員＞

パソコンが導入されて手書きではなくなったので時間短縮できるはずなのに、何が多くなったのかが分からない。委員がおっしゃるように、「公民館で今度こんなイベントをやるよ、楽しそうだね」と担任が強く推したイベントには子どもはすごく興味が湧くようで参加率が上がると感じている。一言かけるということの大切さを感じる。

＜端山委員＞

先生がなぜ忙しいのか。本来先生がやらなければならないのは、一言添えたり、子どもに寄り添ったりすることのほうなのに、事務仕事が多かったり、放課後交通整理をしていたりする。最近の先生は怖くないから先生に言いつけられても良いという風潮があるという話も聞いた。先生が楽になるようなことができれば良いと思う。

《朝倉議長》

昨年度第3回目の会議で、社会教育委員の皆さんにコミュニティスクールに参加していただくと学校の連携が進みますと言う話をしたと思う。だが、そうはならなかったので、学校教育担当職員と社会教育担当職員ともっと連携していただき、余地があれば、学校のほうで行われているコミュニティスクールの委員ができないか検討してほしい。そうすれば状況は変わってくると思う。

とにかく情報が多く、子どもたちと接する時間が少なくなっている。コミュニティスクールでお世話になっている人からチラシが来たら、これは子どもたちに勧めようというふうに思うだろうと思う。そういう付き合いなしに学校に届くチラシを全部先生がチェックしてどれを勧めるかというのは大変だと思うが、もっと人間関係で、あの方がやっているならこれは良いイベントのはずだから子どもに勧めようというふうにやっていくと良いと思う。そういう意味で、コミュニティスクールに社会教育委員が加わることが一つの具体的な方法だと思う。事務局と学校教育の方々との連携を検討していただけると良いと思う。

<竹内委員>

南が丘小学校、中学校学区のコミュニティスクールのメンバーを務めている。良い関係で過ごせていると思う。子ども会の仕事をしているので、校長先生方とも仲良くさせていただいており、学校内で掲示していただきたいと依頼しても快く引き受けていただいている。

子どもに子ども会の活動をもっと楽しんでもほしい。南が丘小学校区には60名ほど活動している子どもがいるが、今、自治会は子ども会を作れない状況にある。子ども会の存在を知ってもらいたいと考えて、通常は会員の子どものみにお知らせしているが、会員以外の子どもにも参加を呼びかけ、とにかく見に来て、参加してみようよと呼びかけている。単位子ども会がない地域もあるが、その地域にももっと子どもを育てなければいけないという意識を持ってほしいと思っている。

私は子どもにもっと地域の人に触れあう体験を作りたい。この大人たちがいるから自分たちは安心して地域で暮らせると感じてほしい。言い方はおこがましいかもしれないが、声掛けや見守りなど子どもへの対応を通じて大人も育てほしい。

それから、最近は子どもたちが忙しすぎるというものもあるが、大人

が準備をしすぎているとも感じる。子どもが自主的に活動するためには、子どもの力で動いていける団体を作りたいと思っている。あなたたちの会だからがんばろうよと言っていきたい。まだ途上の状態と思っている。

南地区は、自治会の子ども会はゼロ。南公民館長や私たち子育てを終えた世代が役員を務め、ネットを活用して子どもにイベントへの参加を呼びかけている。地域にもう少し力を借りたい。

<吉原委員>

コロナで少し減ってしまったが、やはり最終的には人と人のつながりだと思う。tetoru については聞いたことがあるが、どういう形態で誰が使えるのかは存じていない。でも、皆が、なんでもチラシなどを投げかけるとなると受け手も大変だと思うので、やはり管理が必要になってくると思う。tetoru も従来のチラシも含めて、とにかく最近情報は多いと思う。大人も子どもも情報に振り回され、読み下せていないと思うことが多い。介在する方が振り分けて、意義などを伝える場があると良いと思う。

私自身、子育てを離れた年代になって、気づくことも多い。一所懸命やってきたけれど、それが良かったかどうかという、今になって気づくことも多いので、様々な世代が一緒になって活動できたら良いと思う。色々なことを経験してきたので、古いとか新しいといった考えは取り払って、何か良い形で一緒にできることがないかなと思う。

<端山委員>

学校の連絡網は、発信者側からプッシュ型で発信できる点が良いと思った。ホームページなどは発信しやすいが、情報を取りに来てもらわないと伝わらない。イベントの参加者などは「こんな良いことをやっているならもっと宣伝しなさいよ」と言うが、今の役所や公民館は広報にもホームページにも載せて、色々な手段で発信している。それでも伝わらないという悩みがある。プッシュ型で情報を発信できると便利だなというのは、発信者側としてのそういう気持ちがあった。

子ども会の話は、自治会の人で手の空いている人が子ども会担当になってお金も口も手も出すという仕組みにならないかと思う。自分の職場でも提案してみたが、でも、皆、手いっぱいだからだめだと言われて実現していない。秦野だけではなく、日本中同様の状況はある

のではないかと思います。南が丘の例を広げて、秦野だからできたというモデルができないかなと思う。そういうことをやりたいなと思う。

<橋爪委員>

私は、子育て世代、PTAの立場からお話できたと思う。tetoruは確かに通知などが届くが、親にしか届かず、子どもは見ることがない。親と子どもが会えないと伝達が遅れて行事が終わっていたりする。逆に子どもに紙で通知が来ても、机の中に残されたりして親には来ないことがある。これもまた、届いたときには行事が終わっているというのが続いている。

市P連もホームページや広報誌で情報発信しているが、果たして誰が見ているのかというのが内部では毎年議題になっている。関心がないければ見てくれない。では、関心をどうやって持ってもらおうかというのも難しいところで、それも毎年議題になっている。

また、私が住む北地区には子ども会がない。子どもと活動する機会が少ない。周りで何をしているかも全然分からない。大変申し訳ないが、社会教育の情報は一切届かないし、皆さんの活動も申し訳ないが見たことも感じたこともない。そういった現状があるので、うまい周知の仕方というのは永遠のテーマかなと思う。

一方でこういった活動をしたい、皆さんのお手伝いをしたいという保護者もたくさん知っているが、その人たちがどこに声を挙げたらいいのか、誰に連絡をとっていいのか、一切分からない。そういったところをもうちょっと周知、情報提供できれば、賛同者はもう少し集まってくれるのではないかと思います。

《朝倉議長》

市P連の集まりの際に、「情報はSNSでほしいよね」など、ツールの話は出たりするか。

<橋爪委員>

ツールを使っても興味がなければ見ないという話になる。SNSは良い面も悪い面もある。見れる人は見れるが、ではSNSに強くない人はどうすればいいですか、というのもある。広報誌も発信するが、紙がいいのか、SNSやホームページがいいのか、意見は分かれている。

《朝倉議長》

大学でも学生たちを元気にするとかイベントの周知にはどうすればい

いかということで工夫しなければならないが、幸い大学ではそれぞれの授業に教員がいる。「これちょっと行ってみなさい」と言って背中を押すと効果がある。集まりの中でどなたか、オピニオンリーダーというと大げさだが、ちょっと情報の感度が高くて皆が一目置くような人が「行きましょうよ」と言うのが情報発信としては良いのだろうか。

<橋爪委員>

誰かが、熱意を持って話すと伝わると思う。他方で、閉ざされた場の中では、強い人の意見に流される。「今ってそれは必要ないよね」と言われてしまえば、後押しされて「じゃあ、いらないのではないか」と流されてしまう。コロナのときに色々できなくなっていたので、「もう別になくてもいいのではないか」ということで、今は色々やめていこうという風潮が強いと感じる。

一方で、私は、それは違うのではないかと感じている。やめることは簡単だが、続けることの大切さというのもあり、実施することの意味を考えて、存続するためにどうしたらいいのか考えながらやっていけたら良いと思う。PTAは任期が短いので改善して続けるのが難しい。改善したいと思っても来年自分はいないということが起きる。そこに課題を感じる。

《朝倉議長》

皆さんからの意見の一覧も、それをまとめた事務局の資料も、書いてあることはもったもであり、以前から懸案のことが多いと思うが、うまく情報共有されないのでもうまく回らない。また、色々な活動があるのに一般の方々に知られていない。ホームページに出せばいいというのではなく、情報発信のしかたがどうやら違うようだ。ではどうすればよいのか、その辺りに活性化のカギがあるのではということで、資料13の2ページ目下部に協議の視点として「情報発信が重要」という記載がある。私もそのとおりだと思うので、ぜひ情報発信について御意見を伺えればと思う。

<渡邊委員>

先ほどから登場している tetoru とはどのようなものか。

<教育総務課長>

tetoru は、小中学校の保護者の皆様と、教育委員会又は各学校をつなぐ連絡ツールである。今までは学校から保護者あてにメールや配付物(プ

リント)でお知らせしていたが、tetoruに代えることで一層デジタル化を推進し、教職員の負担軽減を図るもの。また、今まで教育委員会から直接お知らせすることはなかったが、tetoruでは重要なお知らせがあれば保護者の皆様に直接お知らせすることができる。あくまで保護者に対する連絡ツールであり、子どもへの連絡ツールではない。

《朝倉議長》

情報を受け取った保護者同士は tetoru でやりとりすることはできるのか。催しのお知らせに対して「これ面白そうだね」などとやりとりしたりできるのか。

＜教育総務課長＞

各学校や教育委員会からのお知らせが届くものであり、利用者同士でのコミュニケーションツールではない。

＜橋爪委員＞

今、スマホで画面を表示させたので実物を御覧いただける。

(tetoruの画面を表示したスマホを回覧)

＜渡邊委員＞

P T Aは介在するのか。

＜橋爪委員＞

介在しない。あくまで学校発信か、教育委員会発信か。P T Aからの連絡は、学校に依頼して、学校発信で送ってもらっている。

＜吉原委員＞

宣伝が入ってくることはないのか。

＜橋爪委員＞

宣伝がどういうものなのかにもよるが、以前はマチコミメールというツールを使っていて、そのときは先生に頼めば色々発信してくれる場合もあった。

＜端山委員＞

学校単位なのか。クラスごとに発信することはできるのか。

＜小畠委員＞

マチコミメールはできなかったが、tetoruはできる。グループを作ればクラス単位での情報発信もできる。

《朝倉議長》

大学でも似たようなツールがある。ただホームページに載せるだけで

は、情報を取りに来ないと見る事ができないので、それに比べると訴求力はあると思う。だが、イベントをやって、なぜ来たのかをアンケートで尋ねると、案内が届いたからと答える学生は非常に少なく、先生が勧めたとか、情報を受け取ったときに友人たちと話をして、行ってみようと思いが上がったとか、人が介在しているとそれが背中を押すようだ。

<端山委員>

大学の先生に学生さんを派遣していただくときは、ゼミを持っている先生にお願いしている。人が間に入らないと、一方的にボランティア募集などしてもなかなか来ない。おっしゃる通りだと思う。

《朝倉議長》

難しいところだ。具体的な話が広がらないと今後の協議の展開がしづらと思うが、事務局はどうか。

<事務局>

私たちも色々広報するが、リピーターの方が「行って良かった」と言ってくれたことで新たに参加する方もあり、人づての重要性は感じる。

一方で、ホームページなど、どこでも見れるかたちでの発信、SNSなどの発信も必要だなと思う。

地域でこれだけ活発に活動いただいている中で、そこにもう少しつなげていくためのアプローチはやはり「人」なのかと思うが、どういう風に行えばいいのか、結論までは出ていない。現段階ではこういう意見が出たということまでで協議結果をまとめることもできるとは思う。

<渡邊委員>

やはりコミュニティスクールだろう。

《朝倉議長》

実は私もその話でまとめようと思っていた。コミュニティスクールは、学校の負担を減らすこともできる。先生方の御負担のうち、この部分は商店会でやりましょうとか、近所の大人でやりましょうとか、その代わりに、地域からの要望についても先生方からワンプッシュしていただくとか。決して単純に先生の御負担を増やすものではなく、お互いに win-win だから色々なことが出来たのだと思う。少なくとも初期の西中学校のコミュニティスクールはそうだった。その後、次々始まっているが、正確な話は知らないが、うまくいっていないところも少なくないという話も聞いている。社会教育委員が加われば、コミュニティスクールを活性化

させる効果もあり、さらにうまくつながれば、先生を通して社会教育の情報を出していただけると思う。やはり、コミュニティスクールを上手に発展させていくのが、この会議の一つの結論だと思う。

<渡邊委員>

昨日、水戸へ行ってきた。大洗町では、2 中学校と 3 小学校で、校区ごとのコミュニティスクールがあったが、西と北のグループに分け、地区ごとのコミュニティスクールを推進しているそうだ。さらに、東京海洋大学と連携して、町、商店街、大学で、地区ごとに取り組んでいるそうだ。

《朝倉議長》

秦野もそうだ。地区ごとにまとめていこうという方向ではなかったか。

<生涯学習課長>

今は学区ごとになっている。社会教育関係では、市内各地区の公民館から、館長がコミュニティスクールに参加している。

令和 5 年度第 3 回社会教育委員会議で皆さんからいただいた P T A や地域コミュニティに関する御意見は、本年 4 月、園長校長会にて報告させていただいた。先ほど議長からお話のあった、コミュニティスクールに社会教育委員が入れば地域の活性化につながるという意見もその中で報告し、その内容は教育長や教育委員会の職員も聞いている状況である。

《朝倉議長》

何度も言っていれば実現しそうなので、ぜひ継続的に申し上げたい。

<端山委員>

コミュニティスクールについて、教育委員会は学校側にどのように運営してほしいと伝えているのか。

地域の顔役だけ集めて、学校内の様子を御披露するような連絡会になってしまうと、地域からあれこれやってみようという話になりづらいと思う。そうではないということを教育委員会からアピールしていただき、メンバーも実際に活動できる方に担っていただくことが必要だと思う。社会教育委員を加えていただくというのも一つだが、実際に動ける方をメンバーにするということ、学校の先生方にもそういう説明をしていただければと思う。

<竹内委員>

今、秦野市内でコミュニティスクールはいくつあるのか。

<生涯学習課長>

今年度で全ての小中学校に整うと聞いている。

<渡邊委員>

コミュニティスクールのそもそもの目的は何か。地域の声を学校運営に反映させたいのか、地域と一緒に学校を作っていきたいのか、どちらなのか。

《朝倉議長》

P T Aはその学校に通っている子どもを持つ親が、学校運営に参加するというもの。コミュニティスクールは自分の子どもが通っていようがいまいが、学校は地域のものだから、支えていこうという発想のもの。

西中学校の事例では、学校の方で、これとこれを地域に手伝ってほしいと提示し、地域の方では、これとこれを学校から子どもたちに呼びかけてほしいというふうにお互いに要望を出し合って運営していた。渋沢駅の商店街でお祭りをを行うとき、地域としては子ども達に参加してもらって賑やかに行いたいと要望し、学校としては、文化祭のお手伝いをしてほしいと要望し、それぞれ手伝った。

<端山委員>

学校運営協議会という名称のとおり、学校運営の話をして、学校運営方針を承認するという役割がある。

<渡邊委員>

学校の運営のための協議会だ。

<端山委員>

そうではあるが、その中で、地域との連携もできる場だ。

昔はP T Aで保護者がやっていたことを、保護者ではない方も含めて地域でも担うというようなこともあると理解している。

《朝倉議長》

社会教育委員会議としては、コミュニティスクールの中で我々の意向を反映できるとしたら、そういう方法になると思う。制度的には、行事について意見を言ったり、少人数クラスにするなら非常勤で構わないから先生を増やしてほしいと要望したり、そういうこともできるものだが、社会教育の観点から、お互いにこれを手伝ってくれたら代わりにこれをやりますというような win-win の関係が目指せると思う。象徴的な例としては、西地区の商店街にシャッターを下ろしたままの店が増えて寂し

くなったという話が挙がって、西中学校美術部の子どもたちに絵を描いてもらおうという話になり、校長先生が子どもたちに伝えてくれて描いてもらったが、これは評判も良かった。こういう関係が良いと思う。その時の校長先生が今度は別の学校でやっていただけたらと思うが、定年退職されてしまった。

< 渡邊委員 >

学校運営協議会は学校の方針を決める会議だと言われて、そういうものだと思っていた。

《 朝倉議長 》

確かに本来的にはそうだ。

< 竹内委員 >

うちのほうでは、学校運営協議会とコミュニティスクールの会議の二本立てでやっている。学校運営協議会は、自治会長を集めて学校の方針を伝える。それを1時間ぐらい。その後で、コミュニティスクールのメンバーで新たに会議を行う。学校側も地域の人たちに学校がやっていることを知ってほしいということで、5月にあった第1回は学校組織の表や年間計画や目標が示された。学校で出しているお便りもいただいた。かなり状況が見えて、地域とうまくつながれるようになると思うので良いと思う。朝の通学の時間帯に立って、安全を守ろうというのも積極的にやっている。伝統的にそういうかたちが出来上がっている。新たにつくろうとすると大変だと思うが、その流れができていたので学校側も助かるのではないかと考えている。

《 朝倉議長 》

南が丘は子ども会が健在で、コミュニティスクールも活発ということなら、ぜひ御報告してもらいたい。

< 渡邊委員 >

青少年指導員も参加しているのか。

< 竹内委員 >

参加している。ただ、南と南が丘とで青少年指導員は分かれ、人手不足と聞いている。

《 朝倉議長 》

コミュニティスクールの話、南が丘の事例などいくつか次回につながる要素が出てきたと思う。これらを基に、事務局のほうで、必要で

あれば私も入って、少し整理して、第3回会議につなげるということ
でいかがか。

<委員>

——異議なし——

(6) その他

ア 事務局から連絡事項が伝えられた。

(ア) 11月2日(土)は神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会(海
老名市会場)が開催される。出席委員におかれてはよろしくお願いす
る。

(イ) 令和7年2月4日(火)は神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研
究会(大磯町会場)が予定されているので、今後、案内をさせていただく。

(ウ) 第3回会議の日程は令和7年2月。詳細な日程は、議長と調整のう
え、通知する。

イ 竹内委員から連絡事項が伝えられた。

秦野市子ども会育成連絡協議会主催、秦野市こども健康部こども育成
課後援、第12回はだのっ子アートフェスティバルのチラシを配付させ
ていただいた。11月17日(日)午前10時から午後2時まで、本町
公民館で開催する。子ども会に加入していなくても参加できる。

(11) 閉会

《朝倉議長》

その他質問等なければ、これをもって閉会とさせていただきます。

お忙しい中、長時間に渡り、ありがとうございました。

以上